

## 公益社団法人船橋法人会 会長賞

### 「税のイメージ」

船橋市立行田中学校

第二学年 大野 里桜 奈

私達中学生が税について持っている知識は少なく、曖昧である。日常生活のなかで税を強く意識する機会も、税の負担の主役である大人に比べると少ない。そのようななか、そもそも税に対してどのようなイメージを持つことが相応しいのだろうか。

私はスマホでニュースを見ることが多いが、今の日本では税に関する印象はあまりいいものではないということがうっすらと伝わってくる。税の不正利用や無駄遣いを批判する記事が多いからであろうか。また、アニメや小説などにおいても税がよいイメージで描写されることは稀である。

一方で、学校や塾の公民の授業で、税とは「社会の皆に利益があることをするために必要なお金を、皆から集めること」と習い、社会のためのより良い税の使い方についてみ

なで考えた。その時学んだ税の本質はとても

理にかなっており、やはり人間社会には必要な仕組みであると思うし、図書館、学校、病院、市役所などの施設や、そこで働く人から受けるサービスなど、税がもたらすメリットを実感できることも多いなか、なぜ、イメージが悪くなってしまっているのか、不思議であった。

確かに税がどのように負担され、どのように使われるべきかというのは難しい問題であるように思う。どの社会でも共通に認識できるようになはつきりとした税の使い方の定義はなく、その地域の社会の構造のみならず、住む人達の思想や時代背景、自然現象にまでも左右される。特に社会の構造の複雑化が進む現代において、全ての人の納得を得ながら税が良いイメージで運用されていくことは叶わぬ理想のようなものなのかも知れない。

しかし、私はメディアから伝えられるイメ

ージに引きずられて、税に対するなんとなく悪いイメージを自分のなかに浸透させてしまうことには慎重でありたいと考える。未来を担っていく私達は、まずは税について中立的に興味を持ち、税に対する教養を蓄え、社会にとつてより良い使い方やルールに意見を出せるようになることを目指すべきである。

そのためにも、なるべく中立的な視点で税と政治の歴史や本質、現状を学び、メディアから与えられる情報も自らの価値判断により、咀嚼して取り込むことができるような能力を身に付けて、自分なりの税のイメージを持つことが相応しいのではないのだろうか。

学んだ結果として、自らの評価として、やはり悪い印象を持つてしまうこともあるかもしれない。しかし批判も正しい根拠があれば立派な意見となるだろう。恐れるべきことは私達一人一人が税に対して無知・無関心になり、明確な根拠に乏しい、なんとなくの悪いイメージが放置され、それが広がり続けてしまうことではないだろうか。

私はこれからも中立的に興味を持ち、学び続けることで、私の税のイメージをゆつくりと模索していきたいと思う。